

フアンが待ち望む 安心安全な娯楽構築へ さらさらにリーダーシップを

警察庁保安課
楠 芳伸課長

庄司会長 今日はお忙しいところ
ありがとうございます。保安課長
に就任されて2回目の年末を迎え
られました。幅広い業務をご担当
されている中で、今年を振り返っ
て私どもパチンコ・パチスロ産業に
対する感慨等をお聞かせください。

**データから見ても
ヘビユーザーへの
依存を危惧する**

楠課長 本日はよろしくお願ひし
ます。昨年(2013年)の8月に
着任してから、早くも1年4ヶ月
が経ちました。ぱちんこ・パチス
ロ産業の1年を振り返ってみます
と、公益財団法人日本生産性本部
発行の「レジャー白書2014」に
よれば、市場規模が18兆8千億円
と高水準で推移する一方で、ぱち
んこ遊技への参加人口は、対前年
比で140万人減少し、1000
万人を割り込む970万人でした。
このことからするといわゆるヘビ
ユーザーへの依存度が高い状況
が続いていると推察されます。こ
のことは、業界がこれまで進めて
きた安く安心して楽しむことがで
きる遊技を提供するという方向に
向かっていないのではないかと危

警察庁保安課、楠芳伸課長と日遊協の庄司孝輝会長との年一回の恒例の対談が、2014年の年の瀬に行われました。楠氏は新年を待たずに内閣情報調査室へ転出されたため、「新春」ならぬ「歳末対談」となりました。

待ったなしの依存（のめり込み）対策をはじめ、射幸性、不正行為、広告・宣伝等の課題について、忌憚のない意見交換がありました。新年に向けて、庄司会長は「安心安全な遊技の提供」「業界の結束」「外国人のファン増」をテーマに掲げ、楠課長は「横断的組織という特色を十分に発揮して、娯楽産業としてのぱちんこ営業の健全化に向けて一層業界をリードされるように」と日遊協への期待を述べました。



日遊協 庄司孝輝会長

パチンコ産業界のあり方について率直に意見を交わす楠芳伸課長（右）と庄司孝輝会長

惧しています。

このため、ヘビーユーザーへの依存を解消することが業界にとって一層重要になってくるものと考えます。業界においては、順法精神に徹した上で、低貸玉営業の普及・定着や、射幸性を抑えた遊技機の開発等を通じて、遊技客がポケットマネーの範囲内で、安く安心して遊技を楽しむことができる環境の整備に向けて、引き続き様々な取組を進めていただきたいと思います。

強い危機感を持ち 本気で協力し合う 取り組み体制に

庄司 2015年は、「安心安全な遊技の提供」「依存問題対策」「業界の結束」「外国人ファンの創出」をテーマにしたいと考えます。「安心安全な遊技の提供」については、パチンコ・パチスロ産業界21世紀会に遊技産業界活性化委員会が設置され、その下に実働部隊の「遊技機械検討」と「遊技産業PR」のワーキンググループがつくられて、現在、月1、2回ペースで活動中です。

東京五輪・パラリンピック開催という明るい目標があります。長

い低迷を抜け、ネガティブイメージを消して社会から真に認められる産業への脱皮を図るために、各団体が本気で協力し合おうと意識したと思っています。

楠 業界14団体が参加する21世紀会において、各種ワーキンググループを立ち上げて様々な取組をされていると伺っています。このような活動に対して、ぱちんこ遊技を低予算で安心して楽しむことができるものにしよという業界の姿勢を強く感じております。これらの取組が、ぱちんこ営業の健全化に資するものとして、成果を上げることを期待しています。とりわけ日遊協は、業界唯一の横断的組織でありますので、その強みを十分に生かして取り組んでいただきたいと思っています。

依存対策が正念場 「対応ガイドライン」 「自己申告」に着手

庄司 もう一つ、依存対策が待ったなしの正念場です。課長講話でも、いわゆるのめり込み対策について強調されていました。お客様が依存問題が社会的に問題視されることは、大衆娯楽を提供する立

場として憂慮すべきことであり、問題解消に積極的に取り組むことが、私たちの社会的責任であると考えます。そうした自主的な取り組みで社会的信頼を獲得していくことが、遊技産業の将来につながっていくと思います。

依存問題対策として、21世紀会を構成する14団体は電話相談機関のリカバリーサポート・ネットワークへの支援を今後も推進していきます。これに加えて、日遊協の依存問題プロジェクトチームを中核にして、遊技産業活性化委員会の下に依存問題ワーキンググループがつくられて活動しています。



健全化への課題を指摘する楠課長

具体的には、全日遊連等各団体による広報啓発活動に加え、ホールを対象に「依存（のめり込み）問題対応ガイドライン」と「自己申告プログラム」ができています。ガイドラインはホール管理者及び従業員への行動・活動指針です。自己申告プログラムは、顧客自身が発用金額をある程度コントロールできるような、会員カードシステム等でプログラムを構築する構想です。

R/S/N支援など 悩み苦しむ人々に 十分な対応を期待

楠 昨年（13年）は、5年連続で死

亡事故が発生していたぱちんこ店駐車場における児童の車内放置事案を未然に防ぐことができましたが、残念ながら本年（14年）6月に、わずか5ヶ月の幼児が車内放置により亡くなるという誠に痛ましい事件が発生しました。児童の車内放置事案への対策については、従前から業界を挙げて推進してきたと承知しておりますが、痛ましい事案の発生が繰り返されたことを受けて、今一度、業界団体で取り決めた事故防止対策について徹底を図っていただきたいと思っています。

また、依存問題相談機関である認定特定非営利活動法人リカバリーサポート・ネットワークについては、平成18年の開設以来、今年9月末現在で1万4000件を超える相談に対応していることとあり、ぱちんこに関し問題を抱える人々に対する取組が着実に進んでいるものと認識しております。今後も引き続き、リカバリーサポート・ネットワークへの支援を拡大し、のめり込み問題に悩み、苦しむ人々に十分な対応が行き届くようにしていただきたいと思います。

更に業界では、これらの取組に加えて、のめり込み問題への対策

を検討するワーキンググループを立ち上げて、短期的取組から中長期的取組まで、既の実施しているものも含め、様々な対策に取り組んでおられると承知しております。のめり込み問題に対する社会の目は極めて厳しいものがあり、これまでと同じ対策では、社会の理解は得られないのではないかと思っています。更なる効果的な対策を実行していただくことを期待しております。

射幸性を抑える 多様な遊技機開発 具体的に検討

庄司 課長講話の最初に、「過度に射幸性を追求した営業」について強い指摘を受けました。業界の健全化を考える上で「射幸性」は根本的な問題であり、依存問題対策にしても依存問題対応ガイドラインのような対症療法的なものとは別に、射幸性の抑制こそが原因療法になると考えられます。

そのため遊技産業活性化委員会の遊技機検討ワーキンググループが多様なニーズに応えられる遊技機の開発を話し合っています。当面はパチンコ機を対象に、日工組

から多種多様な遊技機のタイプが提案され、検討しています。さらに、開発された遊技機のホールへの導入・普及・その検証等も重要なので、遊技産業PRワーキンググループと連携して進めていきます。

ポケットマネーで 適度に楽しむのが パチンコ本来の姿

楠 業界では、ぱちんこ営業者団体と遊技機製造業者団体とが協力して、遊技客のニーズに応えた幅のあるゲーム性を有する遊技機の開発に力を注いでいると伺っております。ぱちんこ遊技の射幸性の問題は、先にお話ししました「のめり込み」の問題と密接に関係するものです。のめり込み問題への対策として最も重要なことは、そもそも遊技客がのめり込まないように射幸性を低く抑えるということであると考えております。

そのためには、ヘビーユーザーへの依存を解消し、ポケットマネーの範囲内で適度に楽しんで帰ることができるといふ身近な娯楽としてのぱちんこ本来の姿に戻ることが基本になると思います。そして、その本来の姿を望むファンの

多いことは、低貸玉営業が8割を超える店舗に普及しているという実態や一般に4円ぱちんこより1円ぱちんこの方が稼働率が高いと言われる実態からうかがい知ることができないのではないかと思います。

遊技機の射幸性の抑制は、短期的には収益を下げる可能性があるかもしれませんが、長期的な視野に立てば、のめり込み問題への対策という観点からも業界のあるべき姿であろうと思います。皆様方の、より一層の取組を期待するとともに、警察としても、業界の自主的な取組への支援を行ってまいりたいと考えております。

8年経過しても 「機構」理解しない 現状は非常に残念

庄司 不正行為はホール内部によるものと外部からのものがあります。おもに内部不正に対する、第三者機関の遊技産業健全化推進機構による立入検査は、07年4月にスタートして以来順調に成果を上げています。今後も業界を挙げて支援していきます。

楠 遊技産業健全化推進機構の立

入検査実績は、既に2万店舗を超え、この立入検査を端緒に検査に至った事例も多数あり、その成果は着実に上がっていると伺っています。

しかし、今年(14年)12月にも兵庫県において立入検査の拒否事案があったほか、拒否や妨害までには至らないものの、それに近い事案もあつたと伺っています。業界の総意で第三者機関として機構を設立し、業界全体でその活動を支え、8年を経過してもなお、機構の活動に理解がない営業者がいるということは非常に残念であります。機構の活動の円滑な実施のためには、不正を排除しようという業界全体の意思と機構の活動への十分な理解が必要不可欠です。この点をしっかり認識し、機構の存在意義とその活動について、今年度業界の全ての関係者が確認していただきたいと思っております。

警察としては、引き続き、機構と連携して不正改造事犯の取締りに努めていきたいと考えております。

巧妙に隠されて いまだに根強い 不正改造の実態

庄司 また外部からのゴトに対し

ては、「いわゆるゴト対策等への迅速な対策を講じるためのガイドライン」が業界に周知され、毎年協定が締結されて順調に機能しています。中古機流通、セキユリティ

ー対策、リサイクル推進の各委員会、ゴト対策4団体会議などが定期的に開かれ、さらに健全化推進機構への協力など、産業界の協調の成果は上がっています。今後さらに行政ご当局と十分に連絡を取り、意見を聞きながら取り組み方を考えていくつもりです。

楠 日遊協は、PSIO事務局として、また、セキユリティー対策委員会事務局として、不正改造防止対策に取り組みされており、また、ゴト事犯については、その実態と対策を業界内部で周知徹底していると承知しております。しかし、主基板の改造や、周辺基板のROMのプログラム改ざんが、疑似カシメ等の工作により巧妙に隠されたものも認められているなど、不正改造事案は一層悪質巧妙化しております。また、ゴト事案の中には、ホールの従業員やメーカーの関係者が関与するケースも見られるほか、依然として釘曲げに手を染める営業者等も後を絶ちません。こ

れらを踏まえると、不正改造事犯はいまだ根深く、相当数存在していると考えられます。

業界としても、情報の共有を始めたとした各種対策の推進や、遊技産業健全化推進機構との協力を進めておられますので、警察としましても、引き続き、遊技産業健全化推進機構とも積極的に連携しつつ、厳正な取締りを行ってまいりたいと考えています。また、営業者自身も、管理者や従業員への指導を徹底するとともに、不正改造防止対策の各種取組を積極的に進めていただきたいと思っています。

貯玉・貯メダルのシステム運用は適正に進めてほしい

庄司 換金需要の低減という観点から、賞品の取り揃えを充実させ、お客様の多様な要望を満たすことで賞品を持ち帰っていただくよう、引き続き力を入れていきます。貯玉・貯メダル再プレシステムも、加盟状況は進んでいます。行政のお立場から営業の適正化に向けて、助言をいただきたいと思っています。
楠 賞品の取りそろえの充実は、

客の多様な要望を満たすことで、換金需要を低減させる効果を期待するものであり、身近な娯楽としてのぱちんこ本来の姿に戻る上で大変重要なことであると考えています。業界では、平成18年に「ぱちんこ営業に係る賞品の取りそろえの充実に関する決議」を行っていますが、その履行状況が十分でないこと認められたことから、昨年(13年)10月に文書で改善をお願いしたところがあります。業界自ら、今一度この決議の重要性を再認識し、賞品の取りそろえの充実を図っていただきたいと思っています。

また、いわゆる貯玉・貯メダル再プレシステムにつきましては、客の換金需要の低減策の1つとして導入されているものと認識しており、4月には「乗り入れ機能」と称する新たなシステムが導入されたところがありますが、手数料等と称して一定数の遊技球等を徴収するような違法な運用がされることのないようにしていただきたいと思っています。

日遊協につきましては、他団体とも連携しながら、引き続き、換金需要の低減に向けた取組に対して御尽力いただきたいと考えています。

広告・宣伝には依然悪質な事案今一度認識新たに

庄司 広告・宣伝は、行政処分件数が依然として多く、巧妙・悪質な表現がなくならないと指摘されています。今一度、業界として真剣に対応していかねければならないと考えています。

楠 広告・宣伝に関しては、各都道府県警察から当庁に対して多数の行政処分事案が報告されています。事案の中心としては、特定の日に特定の遊技機を示しイベント開催を告知して射幸心をあおるものや、釘を開く等の違法行為の宣伝に関するもののほか、特に隠語を用いて規制の目をかいくぐろうとするような悪質な事案が発生していることは残念でなりません。

このような悪質な広告・宣伝がなくならない背景には、射幸性に頼った営業があると思います。業界を挙げた取組として、「気軽に遊んでもらおう」をキーワードに遊技産業活性化のプロジェクトが進められておりますが、そういったコンセプトにそぐわないような広告・

宣伝が継続して行われていることについて、今一度認識を新たにしていただき、業界全体で広告・宣伝等の適正化が徹底されるよう取り組んでいただきたいと思えます。

福祉や環境対策も大きな柱として活動を進めていく

庄司 日遊協は一般社団法人に移行し、事業内容として青少年育成に資する環境整備、ボランティア活動への参加が定款に明記されました。従来から日遊協は、埼玉県嵐山町での「共生の森」の里山づくり事業、東日本大震災で被災した東北―関東の海岸防災林を復興させるための植林事業に参加しています。また、地域の清掃活動、老人ホームのお年寄りの無料招待など、社会福祉や地域との関わりを重視した社会貢献活動が浸透しています。環境問題と社会貢献活動は今後も日遊協活動の大きな柱として推進していきます。

楠 東日本大震災から、まもなく4年を迎えようとしています。現在も日遊協からボランティア隊を派遣され、復興支援活動を継続しておられるほか、里山造成事業、



各団体の協力について話す庄司会長

清掃活動等を進めておられることに対して、改めて敬意を表する次第です。

今後このような活動が継続して行われ、対外的な評価の獲得につながることを期待しております。

人材採用や育成 次の時代のためにぜひ充実させて

庄司 企業にとっても遊技産業全体にとっても人材育成は最重要課題といえます。日遊協は年8、9回の店長・管理職能力開発講習に加えて、中堅管理職を対象にした遊技産業マネジメント・カレッジを毎年1回、人事担当者を対象にした人材育成フォーラムを年3回ほ

どそれぞれ開いています。さらに、遊技機取扱主任者講習・試験を他団体の協力で実施しています。

また、卒業予定者を対象にした合同就職説明会も恒例化してきました。3月7日には東京ビッグサイトで行われるリクルートの「リクナビ」に遊技産業を代表する形で「パチンコ業界特集」のブース出展を予定しています。これは4回目となります。学生さんたちが遊技業界に興味を持ち、就職の対象に考えてくれて、業界関連企業へ優秀な人材が来てくれればいい、来てくれないまでも業界のイメージアップになって若い人たちがホールに足を運んでくれればいいと期待しています。

楠 優秀な人材を採用することや次世代の人材を育成することは、その産業の成長にとって重要なことであると思えます。業界団体幹部の方と次世代を担う若手が、業界のあるべき姿について議論されることは、業界の未来にとっても意義深いことと思えます。今後更にも充実されることを期待しています。

健全化・適正化へ横断的組織の特色活かしてほしい

庄司 日遊協のこれからの活動に対してご意見、ご要望がございましたらお示しください。

楠 ぱちんこ営業は、健全化・適正化の途上にあると考えており、是非、業界の自主的な取組において業の健全化・適正化を達成し、それを維持していただきたいと考えています。日遊協におかれては、本年4月に一般社団法人へと移行されましたが、これまでと変わらず業界の横断的組織という特色を十分に発揮して、娯楽産業としてのぱちんこ営業の健全化に向けて一層業界をリードされることを期待しております。